

Case.08

某建設会社様

テレワーク 導入・活用事例

企業情報

業務

某建設会社
(テレワーク導入活用)

拠点数

複数
(内訳 本社1社+各建設現場)

従業員数

27名

従来運用方法

作業日報を**事後報告**

導入背景

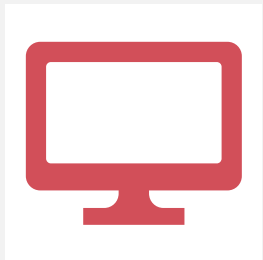
- 1 労働基準監督署より調査が入り、ずさんな勤怠管理を指摘された。
- 2 長時間労働の指摘もあり、残業をしない勤務に改善したい。



初期導入費用を軽減したい



営業・作業員等直行/直帰する
(圏外エリア有)職員も正確な勤
怠管理を行いたい。



本社はタイムレコーダーではなく、
PCブラウザ上で打刻したい。

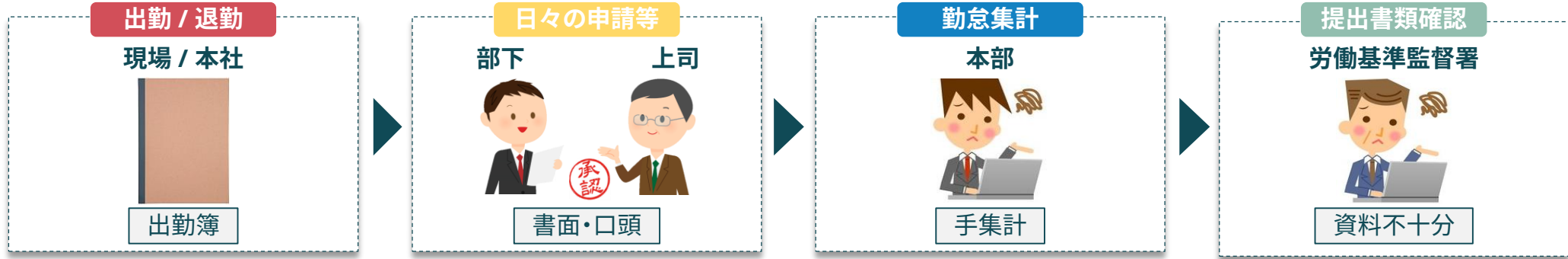


労働基準監督署に提出できる帳
票をシステムから出力したい。

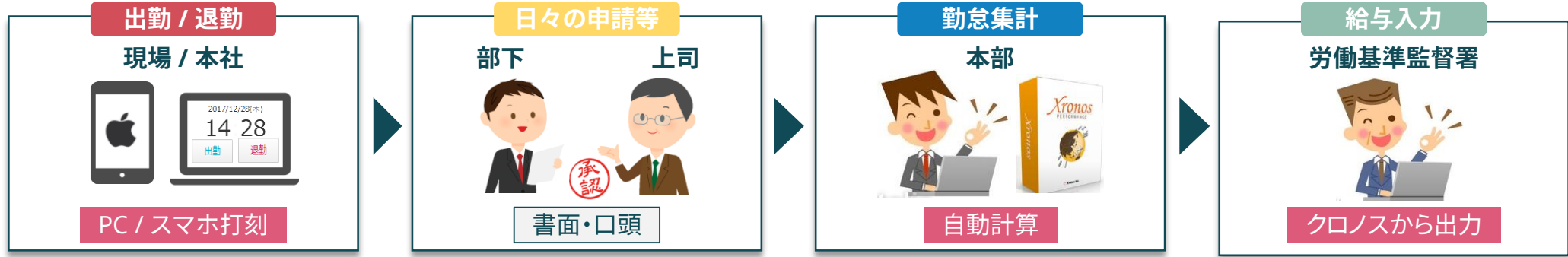
提案のポイント

- ① **初期費用軽減**の為、就業管理ソフトは**クラウド**/タイムレコーダーも機器ではなく、**Webレコーダー**や**スマートフォンアプリ**を提案。
- ② 建設現場や営業先では、**圏外での打刻**も想定していた為、スマートテレタイムXを提案。圏外による**打刻忘れ**を未然に**防止**。
- ③ 長時間労働を未然に防止する為、クロノスのアラート機能を活用。Webレコーダーは、打刻時に予測残業時間を**ポップアップ**で通知するため、注意喚起にも貢献。

導入前の運用フロー(就業管理システム導入前)



勤怠システムの運用フロー(クロノスPerformance導入後)



導入商品

就業管理ソフト
クロノスPerformanceクラウド **50人1CAL**

就業管理ソフト ※ 申請承認OPは未契約
WebレコーダーX・スマートテレタイムX

- 1 **労働基準監督署**に提出書類をスムーズに出力・管理する事が可能となり、**調査に関する対応ミス・時間が削減**された。
- 2 スマートテレタイムで出退勤打刻を行う事により、**外勤者(直行/直帰)の勤務実態と、GPSによる勤務場所を正確に把握する事が可能**となった。
- 3 営業等外勤者も含め、勤務実態を正確に把握する事ができた為、長時間労働する前に、当月の予測残業時間を把握し、**長時間労働の防止**が可能となった。
- 4 **未消化公休日数の把握**と、休日労働時間の自動計算ができた為、時間外労働時間の未払い残業を防止する事が可能となった。
- 5 ICカード導入により、出勤簿や紙タイムカードの保管が不要となった為、**物理的な書類(タイムカード)管理作業が軽減**された。

注意点

- ① 社用携帯電話をガラケーから、**スマートフォンへ変更**。
- ② 有休等の各種申請/承認までの効率化を行う予定はあるが、すぐには困難だと判断し、まずは打刻を押し忘れない事に注力し、**申請承認は既存の申請書(本社で修正)を採用**。
- ③ 直行/直帰時に打刻する際、どこからが業務開始(出勤)で、どこまでが業務終了(退勤)なのかを、明確にする事が必要。
- ④ ③の業務開始/終了の考え方を変更した為、**就業規則を見直すきっかけ**となった。